

**製品名: MLF1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13944**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MLF1
別名	MLF1; Myeloid leukemia factor 1; Myelodysplasia-myeloid leukemia factor 1
遺伝子 ID	4291.0
SwissProt ID	P58340
免疫原	MLF1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 130-210

**背景**

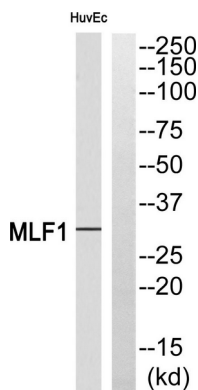
骨髄性白血因子 1 (MLF1) ホモサピエンス この遺伝子は、造血細胞の表現型決定に関与すると考えられる腫瘍性タンパク質をコードしています。この遺伝子とヌクレオフォスミン間の転座は、骨髄異形成症候群および急性骨髄性白血病と関連付けられています。

この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2010年9月]、疾患: MLF1に関連する染色体異常は、骨髄異形成症候群 (MDS) の原因です。NPM1/NPM との転座 t(3;5)(q25.1;q34)。機能: 赤血球形成を制限し、骨髄球形成を促進することで、一次造血前駆細胞の分化に関与します。CDKN1B/p27Kip1 レベルの抑制により細胞が細胞周期から離脱するのを防ぎ、エリスロポエチン誘導性の赤血球終末分化を妨害します。CSN3 を介して RFWD2/COP1 活性を抑制し、p53 を活性化して細胞周期停止を誘導します。DNA に結合し、多数の遺伝子の発現に影響を及ぼすため、核内で転写因子として機能する可能性があります。PTM: YWHAZ への結合にはリン酸化が必要です。類似性: MLF ファミリーに属します。細胞内局在: 非造血細胞では、主に細胞質内に存在し、一部は核内に点状に局在します。細胞質と核の間を往復します。造血細胞では、主に核内に存在します。NPM と融合すると核小体に存在します。サブユニット: MLF1IP と相互作用します。NRBP1/MADM、YWHAZ/14-3-3-ζ、HNRPUL2/MANP とも相互作用する。NRBP1 はセリンキナーゼをリクルートし、自身と MLF1 の両方をリン酸化させる。リン酸化 MLF1 は YWHAZ に結合し、細胞質に留まる。HNRPUL2 に結合することで核内に留まる。COPS3/CSN3 に結合し、RFWD2 の抑制と p53 の活性化に必要となる。組織特異性: 精巣、卵巣、骨格筋、心臓、腎臓、結腸に最も多く存在する。脾臓、胸腺、末梢血白血球では発現が低い。

## 研究分野

-

## 画像データ



MLF1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが MLF1 ペプチドでブロッキングされている。